



^13
3219
2





へ13 特
3219
2

御所奉公東日記

重寶記

書物衣服みあやまのく
油をみたるあゝ屋根の
漆灰を取て粉と
あて振る

其裏よりのて

油もぐくぬけて

跡つどは何より

手軽き妙法あり



御所奉公東日記五編序

畠山重忠の妻美佐保の方夢ふ重忠の前生ハ楚國乃
吳奢あると見る介あふ重保ハ嫡男の伍高めて遊女腹
の重慶ハ吳子昏るるべーのつとを此由縁あらあらうと
重忠原ハ平家みて治美四年源家ふけるも吳奢楚國
の良臣あり一が諛者の為ふ嫡男と死を一時あはる重忠
重保の死も二日を隔む重慶ひとり僧とありて世に残て父の
仇を忘れぬハあはれ吳子昏るとのりても可あらん哉

嘉永七甲寅年初春新板

二万亭應賀誌









▲とらり
 こつが去
 年か
 みごのこころの
 けいごの正使
 けいごのまま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを

このころは
 けいごのまま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを



あまのあ今年
 元三年あつ
 ちりを
 まごのま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを

まごのま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを

まごのま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを

まごのま
 のちり一
 とあまたの
 くのちのち
 ちりを



此の山をたづねて
 つらつとて手をとる小次郎
 廣元はこれに
 あつたこの山をたづねて
 あつたこの山をたづねて

此の山をたづねて
 つらつとて手をとる小次郎
 廣元はこれに
 あつたこの山をたづねて
 あつたこの山をたづねて



此の山をたづねて
 つらつとて手をとる小次郎
 廣元はこれに
 あつたこの山をたづねて
 あつたこの山をたづねて

此の山をたづねて
 つらつとて手をとる小次郎
 廣元はこれに
 あつたこの山をたづねて
 あつたこの山をたづねて



毎日五

この世のことは
かたじけなく
うらやましい
ものやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた

いふとあつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた



いふとあつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた

いふとあつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた



いふとあつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた
りやうな
ものさう
いふと
あつた

牧



あつちのつちの
せなめてしそく
そらあきつゆり
まろなるふへ
せうあてり
をぬり
あつちのつちの
せなめてしそく
そらあきつゆり
まろなるふへ
せうあてり
をぬり



あつちのつちの
せなめてしそく
そらあきつゆり
まろなるふへ
せうあてり
をぬり

あつちのつちの
せなめてしそく
そらあきつゆり
まろなるふへ
せうあてり
をぬり

此の物語は、
 松平の物語の
 一編である。
 松平は、
 徳川幕府の
 重臣である。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 歴史の一部を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。



此の物語は、
 松平の物語の
 一編である。
 松平は、
 徳川幕府の
 重臣である。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 歴史の一部を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。
 松平は、
 徳川幕府の
 権威を
 確立する
 ことに努めた。
 彼の物語は、
 徳川幕府の
 権威の
 確立を
 示している。



いかに世の中はけしきやうの世に六ツのうら
ねこのあつちやうをききしをうら
下まのちのあつちやうをききしをうら
あつちやうをききしをうら
いかに世の中はけしきやうの世に六ツのうら
ねこのあつちやうをききしをうら
下まのちのあつちやうをききしをうら
あつちやうをききしをうら



いかに世の中はけしきやうの世に六ツのうら
ねこのあつちやうをききしをうら
下まのちのあつちやうをききしをうら
あつちやうをききしをうら

いかに世の中はけしきやうの世に六ツのうら
ねこのあつちやうをききしをうら
下まのちのあつちやうをききしをうら
あつちやうをききしをうら



いかに世の中はけしきやうの世に六ツのうら
ねこのあつちやうをききしをうら
下まのちのあつちやうをききしをうら
あつちやうをききしをうら

東日記五

乙卯春錦橋堂新板

御藥 中固齣散 本代 貞銅

功 能 血のろくろ 用ひするのうまひありおほく

清浄 精製 白妙 卅二銅

寐小使の太奇藥 見代

應賀作芳虎



そのうらむは... 乙卯春錦橋堂新板... 御藥 中固齣散... 功 能 血のろくろ... 清浄 精製 白妙 卅二銅... 寐小使の太奇藥 見代

應賀作芳虎... 周家... 乙卯春錦橋堂新板... 御藥 中固齣散... 功 能 血のろくろ... 清浄 精製 白妙 卅二銅... 寐小使の太奇藥 見代

塵塚物語 三編 山東 藤原山 作

葛葉九重錦 五編 万享 應賀作

英雄五弁 五編 万享 應賀作

雛鶴御湯壽 大木 山東 藤原山 作

蒲角全相 中東 藤原山 東 作

中橋 廣小路町 山田屋 庄兵衛 改 枝元 庄次郎

石亭應賀作
一猛齋芳虎画

下

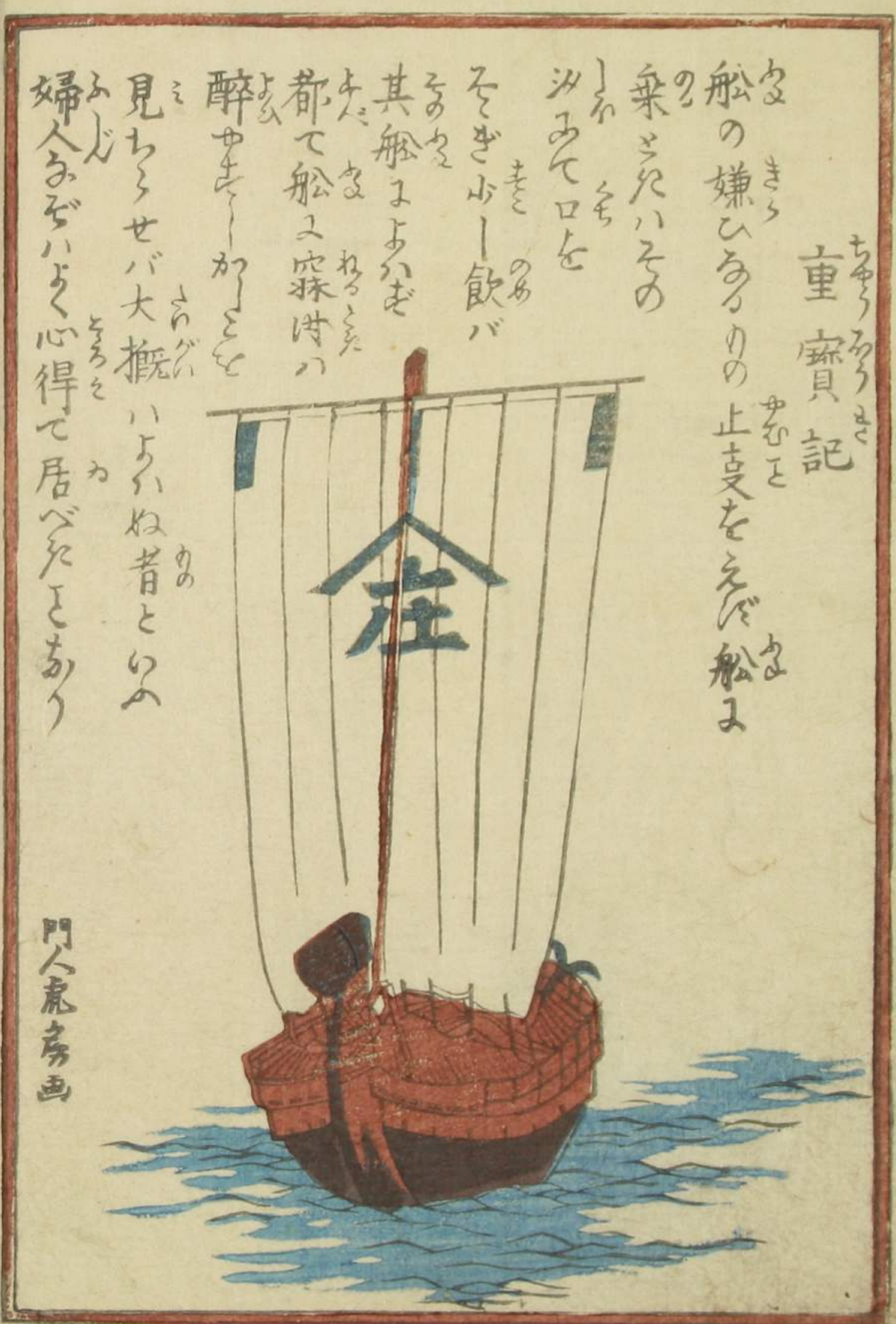
錦橋堂壽梓



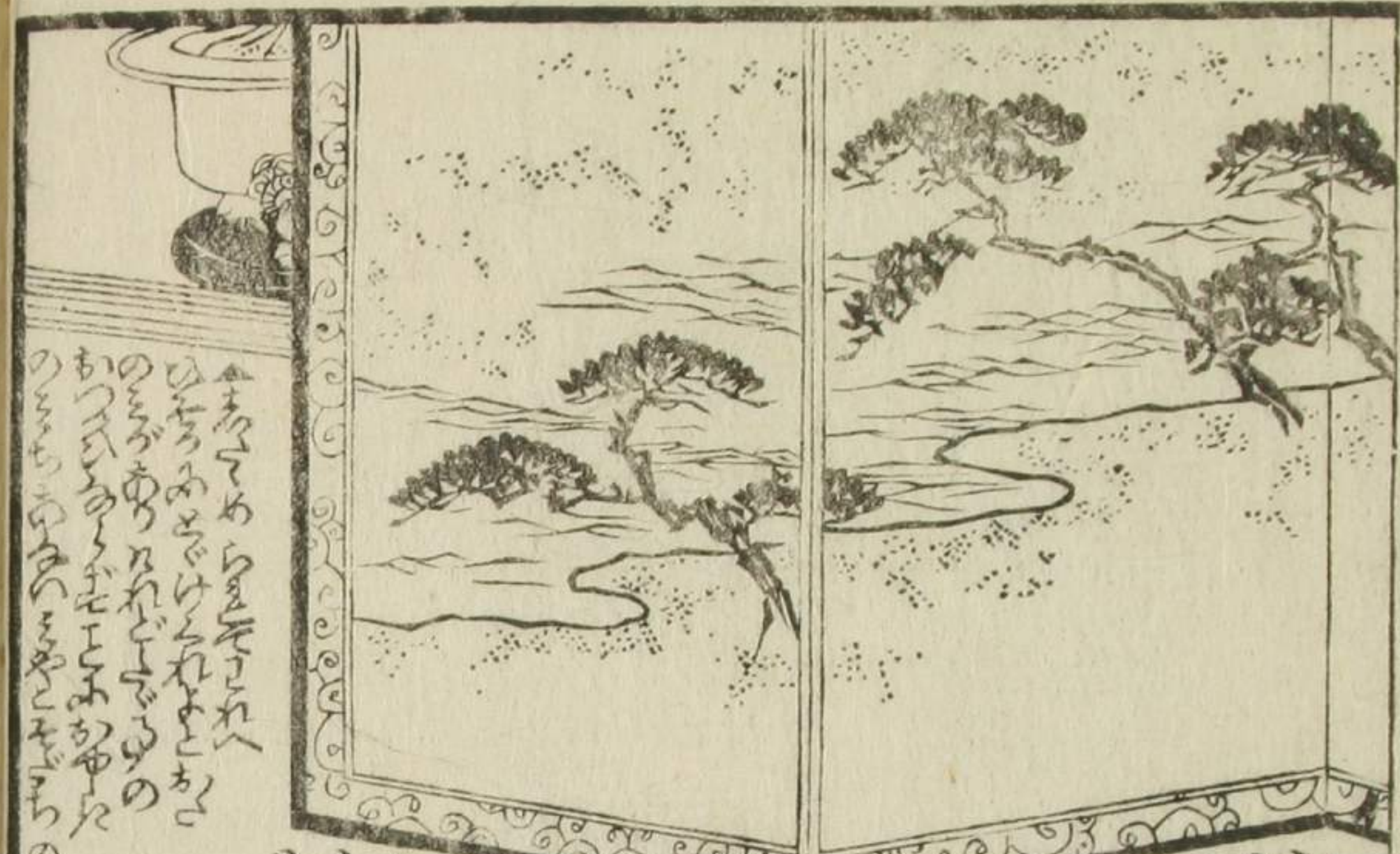
上の巻より...
 舟の嫌ひあるの止まをえげ船よ
 乗さるゝその
 ぬみて口を
 そぎ少一飲バ
 其船よよのむ
 都て船よ穴株付の
 醉や...
 見ちりせば大概いふぬ者とり
 婦人あぢい心得て居べたところ



重寶記



門人虎房画



この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ

なほわが心も
あつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ

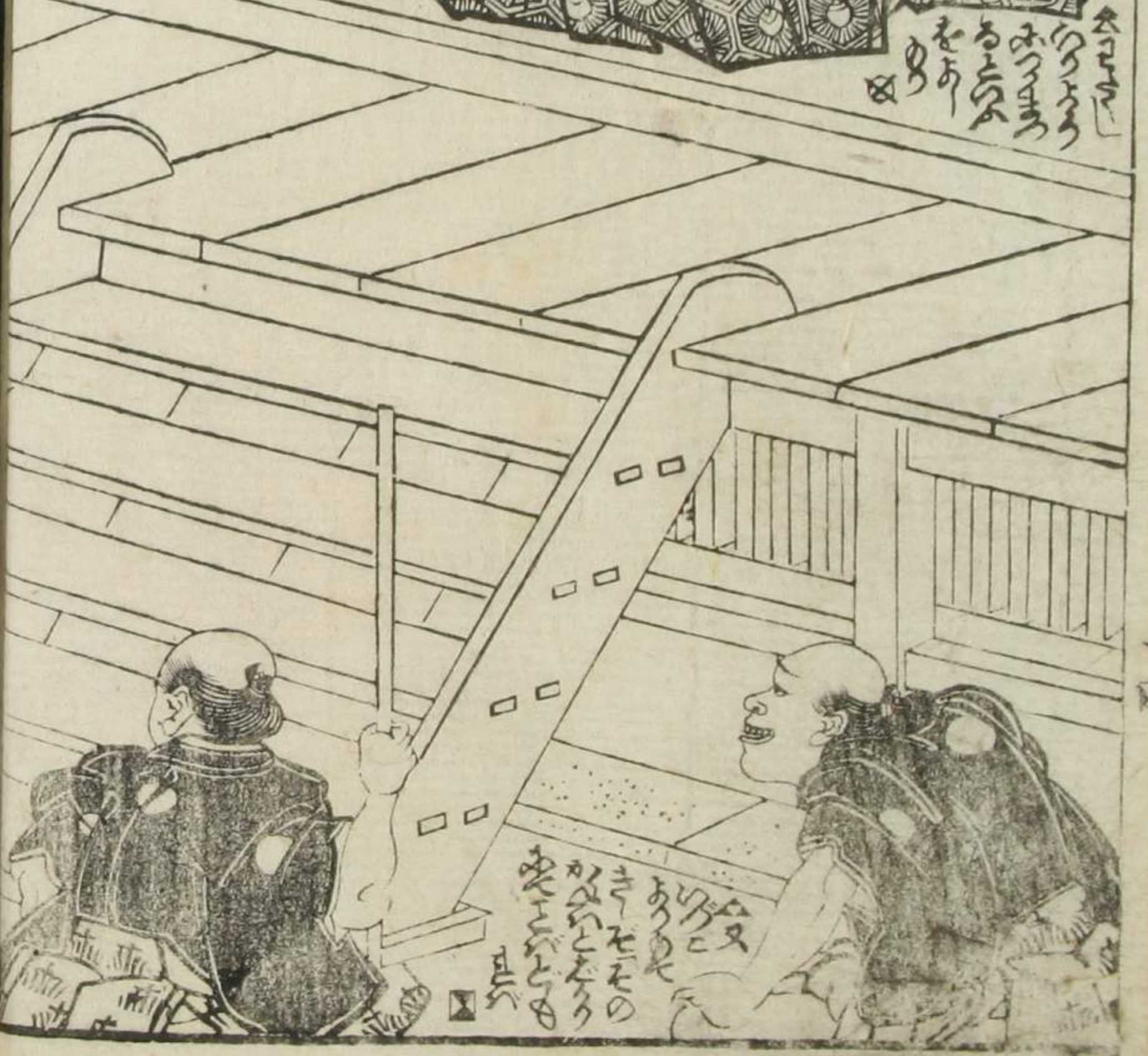


この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ

なほわが心も
あつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ
この山を望んで見れば
なるほど草花の香も
またあつたかと思ふ

月四日

五





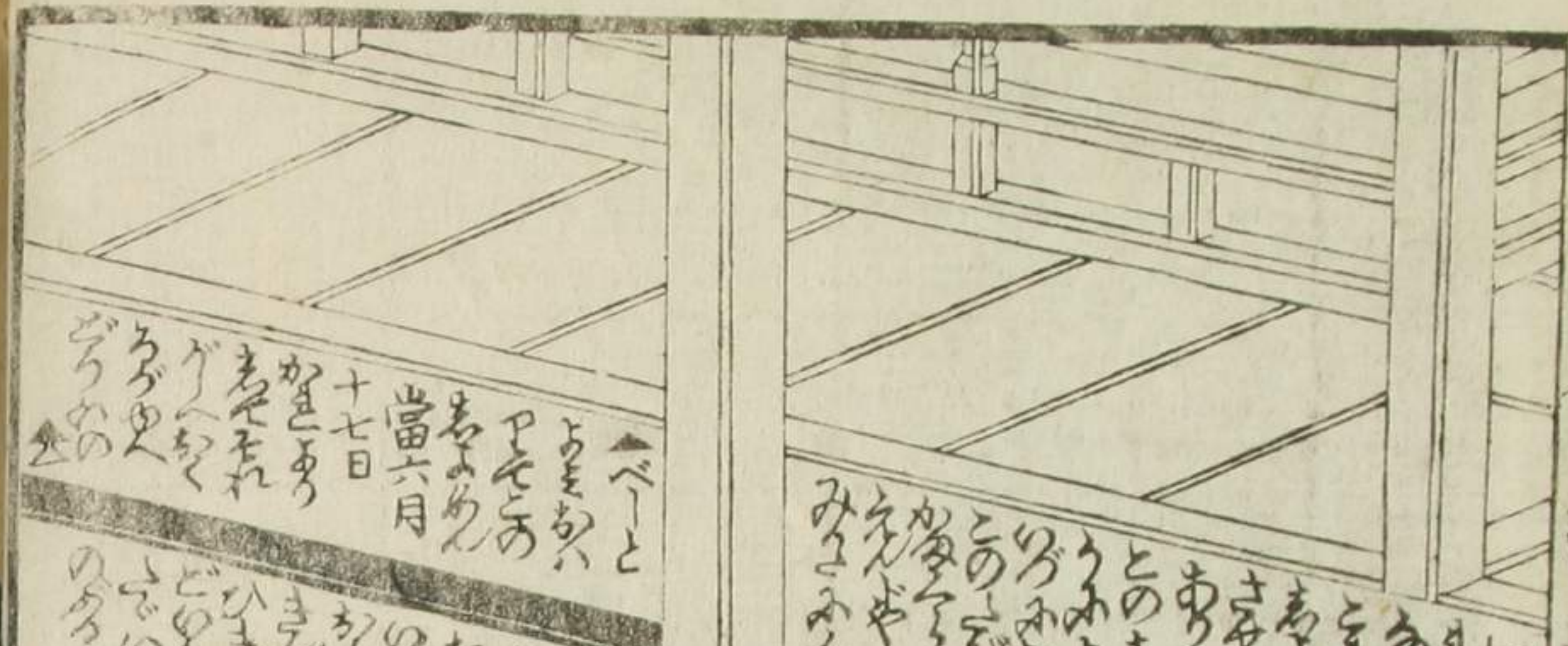


ら且そこのわいをまきあひて
 ぶらんあつとのふりまき
 ぶらんあつとのふりまき
 ぶらんあつとのふりまき



11

12



▲ベト
 上を
 下を
 中を
 左を
 右を

つまじわわんちのあつたあ
 且つあるをたつたあ
 且つあるをたつたあ
 且つあるをたつたあ



時
 時
 時
 時



つまじわわんちのあつたあ
 且つあるをたつたあ
 且つあるをたつたあ
 且つあるをたつたあ



〇 卯初春錦橋堂新板目錄 〇

<p>造榮櫻最紙 九編梅彦作 編芳虎画</p> <p>庄 地本 錦繪 問屋 山田屋 庄次郎</p>	<p>品定五人娘 五編京山作 六編芳虎画</p> <p>浮寐鳥騰漣 五編花咲作 大編豊國画</p>	<p>女房形氣 十編京山作 六編國貞画</p> <p>和妻州紙 五編調布作 編同画</p>	<p>あひの日記 五編 編編 萬亭應賀作 編編 福齋芳虎画</p>	<p>情鹿子母屋小流 三編 四編 五編 空中樓花咲作 一編 湯齋豊國画</p>
---	---	---	---	---

萬亭應賀作 〇 一猛齋芳虎画





万喜應賀作

上



重寶記

都て便所へゆくとき懐中の財布もちろん
あゝのまらうふ提たるものいさう置て
ゆるゆるあつみも女ち櫛うらぬ
守ぶらうなど心げくべし又けり

細き麻縄はらうのちうふりつべき

の鼻緒をどされるとは用立てあり

銭がたぬをうふあはる人々あふあふ
あふあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはる



御所奉公東日記 六編序

富士重忠元久二年六月十九日諺者稲毛重成ヲ為小菅谷の
館を發向し廿二日午の刺武刃二俣川お着子息重保の誅せ
られしを聞始めて奸者を深く憎めど前業の報ひと悟りて其言
記をせば百三十余人の者潔く鶴ヶ峯の林において酒宴を催し
甲冑も帯び討死せし誠み四相を悟りて武士あり然れど稲毛
あはる小人の謀み落命あるの思慮あはる似されども庶直聖賢の
輩ハ小人の意ならん都て人口を疑いながら難み命とりども天
是を助くべし和田義盛の助言も通せば阿倍の為ふ亡びしこと
天也命也宿因ある人悼まざる不可有と云

嘉永八乙卯歲初春新刻

万亭應賀誌





侍女 賤織

初め 義秀 小会
長谷 寺 小
松島 局



京上 鶯
松島 局

和田 義秀



畠山次郎
 平重忠



本多 次郎 常
 近 常
 畠山 次郎
 平重忠
 武加 二
 侯 川 之
 邊 霍 之
 峯 之 禁
 小 於 之
 最 期 之
 酒 宴 之
 催 之

成 六 棧
 清 郎 沢

重 忠 子
 重 慶
 法 師



ついでに... 八當り
 休所
 まあむせ
 よしひま
 さんけい



ついでに... 菊権
 ついでに... 秀

田代

へ次



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely dialogue or a narrative, located at the top of the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely dialogue or a narrative, located at the top of the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely dialogue or a narrative, located at the bottom of the right page.



大いなるおどろきのめかけ
 マアセキーねつゝいもまた
 けるやめらるゝとええん
 まアアアアアアアアアア
 どあら人のアアアアアア
 はあわれあアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア

今れ
 とららふ
 あまも
 女子のらこつ

東田八小



大いなるおどろきのめかけ
 マアセキーねつゝいもまた
 けるやめらるゝとええん
 まアアアアアアアアアア
 どあら人のアアアアアア
 はあわれあアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア

今れ
 とららふ
 あまも
 女子のらこつ



大いなるおどろきのめかけ
 マアセキーねつゝいもまた
 けるやめらるゝとええん
 まアアアアアアアアアア
 どあら人のアアアアアア
 はあわれあアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア
 アアアアアアアアアア

己未春錦橋堂新板

固齒散 大包代百銅 小包代三銅
御藥 一物けを一らねを一らみ血
一血のり一えさきなき
○用かきうのよきふはくおきひ

清浄 白妙 一色代 世二銅
精製 せりて入金用おれはる
ゆきあつての

寢小便大奇薬 一包代 三百銅
わしあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき

美玉百人一首 中本形全一冊 女用文章入

紅梅百人一首 半紙本全一冊 女用文章入

源氏一猛圖會 全同 撰 冊同 画

雛鶴笹湯壽 紅摺 山東菴京山作 一本 一陽齋並豆國重

女甫文章箱 中本形 全冊 東菴京山作

金庄 地本 錦繪 山田屋庄次郎 江戸南傳馬町丁目

應賀作 芳虎画



つま ありあけのきこえの
のちあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき
ゆきあつてのあきさき

△とあれはんぞう
あんの文章
あんの文章
あんの文章
あんの文章

△とあれはんぞう
あんの文章
あんの文章
あんの文章
あんの文章





上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野

五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野

五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野

重寶記

五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野
 五重ノ命ノ上ノ米 元久二年六月廿日 和野





ついでに... (vertical text column 1)

ついでに... (vertical text column 2)

ついでに... (vertical text column 3)

ついでに... (vertical text column 4)

ついでに... (vertical text column 5)

ついでに... (vertical text column 6)

ついでに... (vertical text column 7)

ついでに... (vertical text column 8)

ついでに... (vertical text column 9)

ついでに... (vertical text column 10)



東日本

十五



東日本

十五







巳未初春錦橋堂新板目錄

万亭應賀作

一猛齋芳虎画



教草女房形氣

十九編 山東菴京山作
二十編 梅蝶樓國貞画

利翁手深紫

十九編 金水作
二十編 國貞画

五格三驛

初編 雪住作
六編 芳虎画

佛所 何の日記

九編 万亭應賀作
十編 孟齋好寅画

宮城野 歌討白石咄

全 孟齋作
二册 好寅画

伊賀越歌討物語

全 孟齋作
二册 好寅画

無病 養生手引草

十編 梅彦作
揄 芳虎画

庄 錦繪問屋

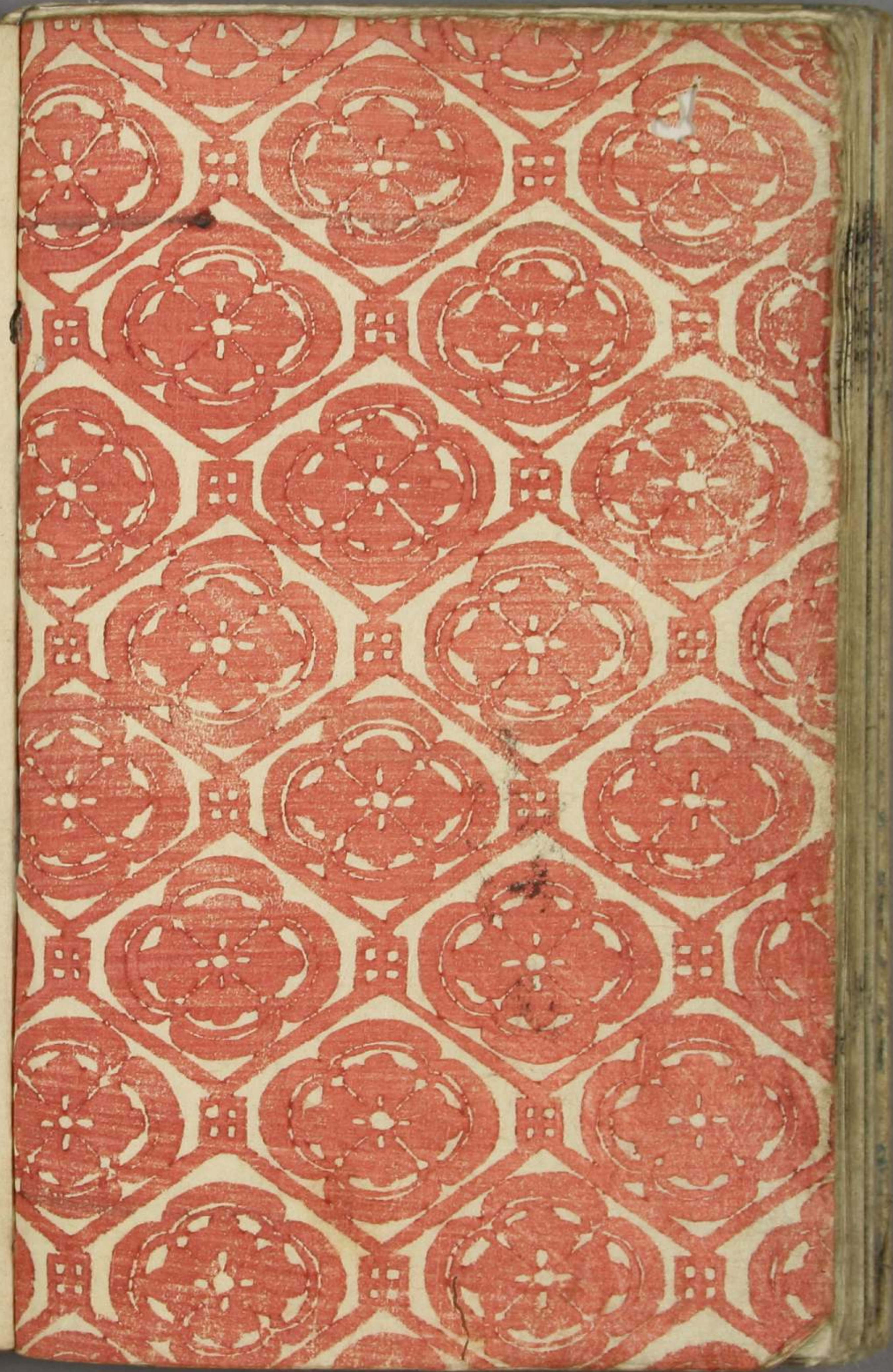
南傳馬町三丁目
山田屋庄次郎

長壽 養生手引草

立齋廣重画

七三〇七

日本書



音

妻

六編

水月

三

記

万亭應賀作

一猛齋芳虎画



猛齋芳虎